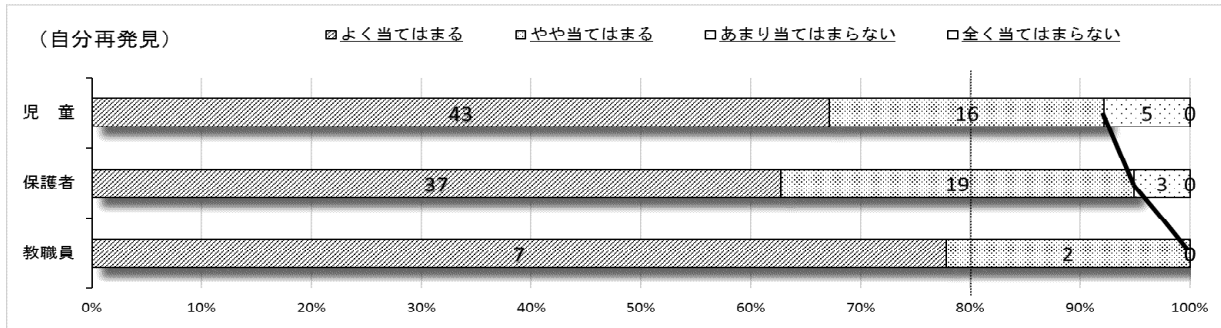


学校評価（3者アンケート）の分析と考察

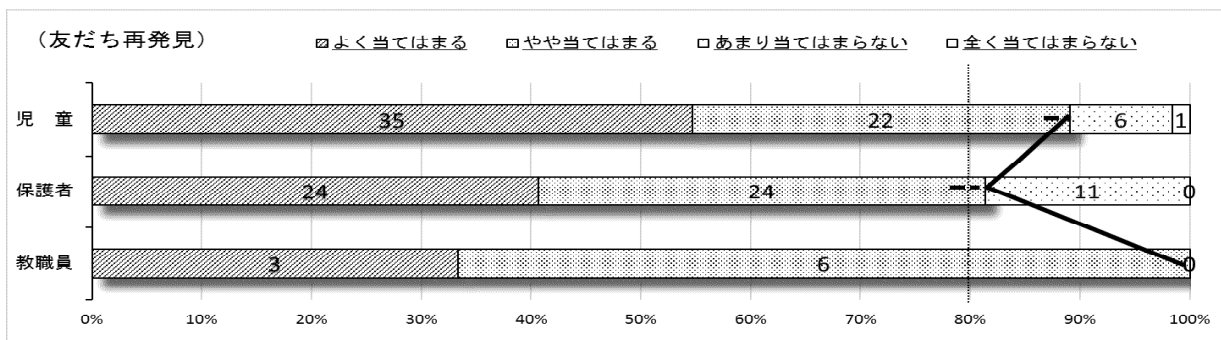
1 評価の高い項目

(1) 自分再発見「自分の中に変化や成長を感じることもある」について



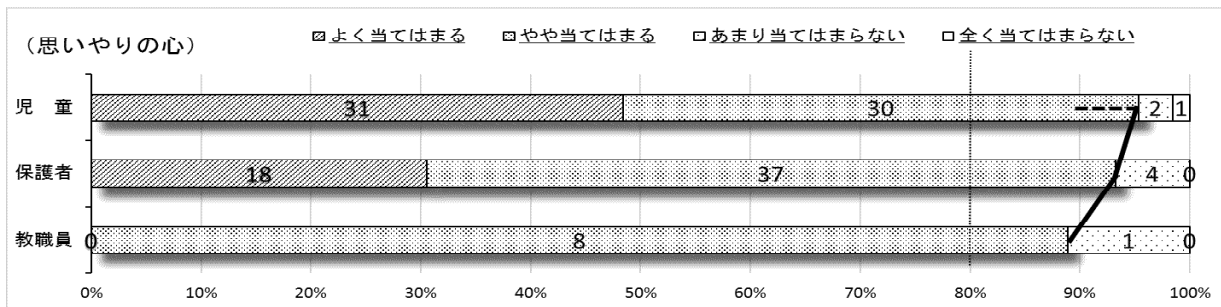
① (自分再発見) については、3者ともに評価が高い。2学期の行事や授業、スクラム活動などを通して、子ども自身が成長を実感している様子が見られる。今後も、学級担任やスクラム担任は、年間のどの場面で達成感や有用感を育てていくかをあらかじめ検討し、全ての児童に関する事前の支援方針をもって学級経営やスクラム経営に当たっていく。

(2) 友だち再発見「友だちとの人間関係が深まったり広がったりしている」について



(友だち再発見) については、クラス替えがない環境においても、人間関係を固定化することなく、新たな人との関わり方に挑戦することができた。人との関わりの中で自ら学ぼうとする態度を今後も様々な場面で育てていきたい。また、スクラム活動で人間関係を広げたり深めたりできた姿を、学級担任は機会を捉えて保護者に伝えていきたい。

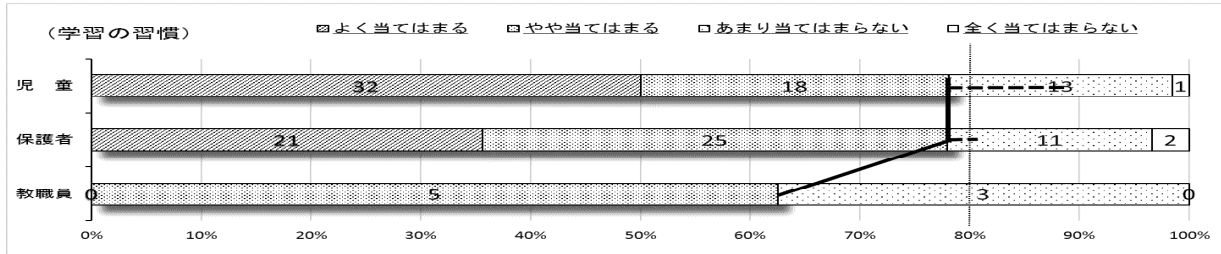
(3) 思いやりの心「人の気持ちを考えて行動している」について



⑫ (思いやりの心) については、休み時間や行事などで、より多くの友だちと学年を問わず関わりをもち、具体的な行動として、誰かを助けたり、集団に協力したりする機会が増えた。各自が実践力としての優しさに自信をつけた成果だと考えられる。また、⑦ (社会性の伸長) についても、子どもたちは自信を伸ばした。

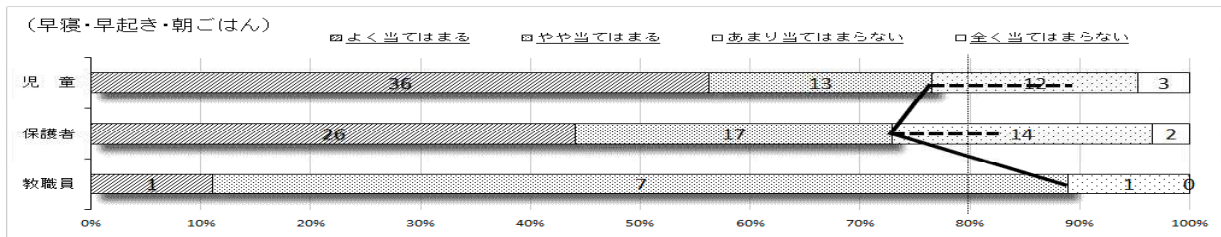
2 評価の低い項目

(1) 「学び」や「学習」に関する回答について



7月同様、③(対話による学び)や④(主体的な学び)、⑤(学習の定着)、⑪(学習の習慣)などの、「学び」や「学習」といった評価が、他と比較すると低い傾向がある。特に⑪(学習の習慣)については、3者ともに課題と感じている。今後は学習部で家庭学習に関する実態を把握することが必要である。また、③(対話による学び)が大きくポイントを下げたことについても、まずは指導者自身が授業観を絶えず問い直し、自らの授業改善への歩みを強くする必要がある。学級間で格差が生じないように、研修部で具体策を講じていきたい。

(2) 生活習慣「早寝、早起き、朝ご飯ができています」について



⑪(生活習慣)について、「早寝、早起き、朝ご飯」の評価が低かった。ポイントの低さは低学年にも目立ち、必ずしも高学年の問題ではない。保護者の多くも同様の課題意識をもっており、生活習慣に関する指導については、学級担任を中心に生徒指導部や養教部と連携して取り組んでいく。

3 まとめ

傾向を分析することで、次年度の教育課程にも活用するが、調査人数が少ないため割合(パーセント)で分析するよりも、個別の指導と支援に生かすことが有効である。

特に、「当てはまらない」の回答が多く、自尊感情に課題が見受けられる場合には、教育相談を通じた児童理解をもとに支援にあたる。

支援においては、学級担任を中心に、生徒指導担当や養護教諭などが関わるようにする。また、保護者との情報共有や共通理解のもとで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関とも連携することで、組織として課題解決に取り組む。